

個 別 の 人 権 課 題			性的指向・性自認		
校 種	高等学校	本 時 に 関 わ る 3 つ の 側 面	知 識 的 側 面	◎	
対 象 学 年 等	第1学年		価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	○	
教 科 等	家庭基礎		技 能 的 側 面	○	
単 元 名	青年期の自立と家族・家庭				

1 単元の目標及び計画

(1) 単元の目標

人の一生の各ライフステージの特徴と課題について理解し、生涯を見通した中で青年期をどのように生きるか具体的に考え、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性を認識する。

(2) 単元の計画

- 1 次・・・青年期の自立（本時を含む）
- 2 次・・・家族・家庭を考える

2 学習指導要領等の該当箇所

高等学校学習指導要領・第2章・第9節・家庭・第2款・第1 家庭基礎

2 内容

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉

人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について理解させるとともに、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉について考えさせ、共に支え合って生活することの重要性について認識させる。

ア 青年期の自立と家族・家庭

生涯発達の視点で青年期の課題を理解させ、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えさせるとともに、家庭や地域の生活を創造するために自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することが重要であることを認識させる。

エ 共生社会と福祉

生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解させ、家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について認識させる。

3 本時の目標

生涯発達の視点から青年期の意義と発達課題について理解し、将来、自立して自分らしい生活を営むために必要なことや各自の自分らしい生活が尊重される共生社会の実現に向けて必要なことを考えることができる。

4 人権教育との関わり

この単元では、青年期の自立と家族・家庭について学習する中で、個別の人権課題の一つである「性的指向・性自認」に関連する内容を取り扱います。具体的には、性的指向や性自認について正しく理解し、性の在り方が多様であることに気付かせながら、人の生活や生き方は多様な価値観に基づいて営まれていることや、自分らしい生活の実現に向けて、互いの個性を尊重し、共に支え合いながら生きる共生社会の実現の重要性について理解を深めることを大切にしています。

5 本時で育てたい3つの側面

知 識 的 側 面	人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
価値的・態度的側面	多様性に対する開かれた心と肯定的評価
技 能 的 側 面	他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能

6 本時の学習過程

学習過程等	人権教育との関わり等	資料等
<ul style="list-style-type: none"> ・前時は生涯発達の視点から各ライフステージの特徴について学習したことを確認する。 ・青年期は身体に大きな変化が起こる時期であり（第二性徴）、この変化をきっかけとして自分の生き方を深く考えるようになる。 		
【課題】 自分らしさとは何かを考え、将来自分らしい生活を営むために、青年期に何をなすべきか考えよう。		
■学習活動（グループ） 【自分らしい生活とはどのような生活か、将来の自分が生活している姿を具体的に思い描き、交流しよう。】 （例）自分が一緒に暮らしたい人と生活している。 （例）自分が希望する仕事に就いて活躍している。 （例）外国語を習得して海外に移住している。等 ■学習活動 【自分らしい生活を実現させるために、青年期である今、なすべきことは何か考えよう。】 （例）衣食住に関する身の回りのことを自分でできるようにする。 （例）職業について調べ、就きたい職業について考える。 （例）人間関係を広げてコミュニケーション力をつける。 <ul style="list-style-type: none"> ・青年期に達成すべき発達課題の中で最も重要なのは、自分らしさに関わる「アイデンティティの確立」である。 ・職業選択や経済的自立に向けて、将来の自分の姿を思い描きながら自分に向いている職業について考える。 ・日常の様々な出来事に対して、自分で判断し、責任をもって行動するようにする。 ・恋愛経験や友人との衝突などの多様な人間関係を経験する中で、多様な価値観を認められる寛容さを学ぶ。 ・固定的な性別役割分業意識などにとらわれずに自分らしい生活を考えていく。 ・性の在り方は多様であることの理解の下、自分の生き方を少しずつ形づくっていく。 ・これらの発達課題を達成しながら、各自がアイデンティティを確立し、自立に向けて準備することが大切である。 ■学習活動（グループ） 【各自の個性が尊重され、自分らしく生きられる共生社会の実現に向けて、できることやすべきことを話し合おう。】 （例）ステレオタイプな見方にとらわれていないか自分の内面を振り返り、様々な価値観や生き方があることを認める。 （例）病気等で自立が困難な場合もあるので、相互に支え合ったり、援助のしくみを整えたりすることも大切である。	【知識的側面】 <ul style="list-style-type: none"> ・人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識 【指導上のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・どのような性別の人を好きになるかという「性的指向」や自分の性をどのように認識しているかという「性自認」について正しい知識をもち、性の在り方が多様であることに気付かせる。 	○資料「多様な性について考えよう（法務省）」
【まとめ】 青年期とはアイデンティティを確立する時期であり、発達課題を達成しながら自分らしさを確立し、自立に向けて準備していくことが求められる。	【価値的・態度的側面】 <ul style="list-style-type: none"> ・多様性に対する開かれた心と肯定的評価 【指導上のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・各自が自分らしい生活を実現するためには、自分の基準だけで物事を判断するのではなく、多様な価値観や生き方を相互に尊重しようとする態度が大切であることに気付かせる。 	
・次回の授業では、互いの個性や価値観を尊重し、協力し合う家族・家庭生活について考えよう。	【技能的側面】 <ul style="list-style-type: none"> ・他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能 【指導上のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・各自が自分らしい生き方を実現するために必要な支援の在り方や社会の仕組みなどを具体的に考えられるようにする。 	